

年代は 17 社中 19 世紀が 8 社、20 世紀が 9 社である。

仮屋は 82%が正面に 3 間分柱間をとり通し一間とし、背面 1 間に神輿安置の高棚を設ける。背面を除く 3 面とも吹き放しで、防雨のため 55%が出桁造である。

正面方位は九重町では南西、西面が多く、全国官国幣社では南面が多い。鳥居は本殿の正面にある神社が 15 社、側面にある神社が 3 社である。

氏名 03 GTA-02 加賀江 広 宣

研究題目名 領域と振る舞いの関係性

指導教授名 上和田 茂

今日の都市空間は近代以降の機能性・効率性・経済性の偏重による空間作りが今なお主導的である。機能的に極度に分割された個々の空間は、雰囲気や法的規制等によって、個人の振る舞いを必要以上に画一的なものとし、個々人の振る舞いの多様性を喪失させてしまっているのではないだろうか。その因を領域と振る舞いの関係性に見出し、その考察を通じて振る舞いの多様性を取り戻す糸口を探ろうとするものである。そして両者をつなぐ概念として「フレーム」という概念を用いている。この概念は心理学等の分野から抽出したもので、個人の内に社会的・個人的なフレームが対関係をなして設定される。外的、内的作用によって双方の比重が増減し、振る舞い、領域の認知に影響を与えているものと考えている。冒頭の問題は、社会的フレームの厳格性、非柔軟性の結果生じており、このフレームの柔軟性の確保が領域と振る舞いの適度な関係性を保障するものと結論付けている。

氏名 03 GTA-03 侯 宇 峰

研究題目名 高齢者の自立と支援からみた多世代共住型居住施設に関する研究

指導教授 上和田 茂

要介護高齢者の居住環境の形成にあたっては、高齢者の自立的で主体的な生活の保障とともに、家族の介護負担の軽減が望まれることから、在宅の要素を取り込んだ施設ケアがその有力な選択肢の一つと想定されるとの前提に立ち、高齢者居住施設における望ましい空間的条件および運営上の要件を見出すことを研究目的とする。調査対象は、高齢者のみならず多世代が共住し、賃貸集合住宅に訪問介護システムが導入されている「介護付きアパート・ぼちぼち長屋（愛知県長久手町）」とし、生活行動観察調査およびインタビュー調査を実施した。

調査の結果、地域とのつながりが持てる立地、10 人程度の小規模居住単位、個人空間の確立と共用空間の中における居場所の確保、高齢者自身による生活の自由裁量および役割の付与、高齢者の生活リズム・スピードに合致した介護支援、家族および入居者との接触・交流による精神的支援などが重要な要件であることが判明した。

氏名 03 GTA-04 武 石 真 澄

研究題目名 ケヴィン・リンチ『都市のイメージ』の再考

指導教授 上和田 茂

都市は近代に入りその主流を占める機能主義の潮流により経済性、効率性など機能論的視点による束縛から解き放たれていない。発展の速度が速い資本主義社会の中で我々は何を頼りに都市を秩序づければよいか深く考える時代を生きている。本研究は 1960 年出版、ケヴィン・リンチ『都市のイメージ』における論考を整理し、現代における解釈と課題の提示を行う。建築学、地理学の分野において都市に対する新たな理論的アプローチを与えたという意味において、以後の研究者がリンチの理論をどう解釈していたのかを把握する。また、リンチ以降学際的研究が幅広く行われるようになったことから、イメージに関わる幅広い考察を加え言語学、心理学、生物学の分野で特に明確に定義されるコンテクストの概念を導いた。建築学でいわれるその再構築の意義も含め、都市の様相を捉える視点を得たと共にイメージ形成においてコンテクスト概念が重要であるとの結論を得た。

氏名 03 GTA-06 松 岡 修 弘

研究題目名 小学校における教室環境とエネルギー消費量に関する研究

指導教授 西 田 勝

平成 13 年度に文部科学省が文教施設における教育環境向上による学習効果・意欲の向上を促すため、学校建築への空調設備設置の方針を打ち出したことから都市部を中心に意欲的に空調導入を行う地方自治体も出てきた。一方、空港周辺の航空機騒音や市街地の交通騒音対策のためにすでに多くの学校で空調導入が行われてきているが、今後さらに空調システムが導入される学校が増えていくことが予想される。それらの需要増に伴い、健康的かつ省エネルギー的な空調システムの設置及び運用が不可欠であり、そのための基礎的調査を行った。

本論文では、福岡市内の小学校 144 校について、平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月の一年間のエネルギー消費量を調査し、平成 13 年のエネルギー消費量との比較、及び非空調校、空調校とのエネルギー消費量との比較を行い、さらにエネルギー消費量と児童数・校舎延床面積との相関解析及び予測を行った。また福岡市で唯一冷暖房設備が導入されたオープンプラン型である博多小学校の長期実測調査のデータを解析し、教室環境、エネルギー消費量、冷房使用時間数を調査・分析し、平成 15 年 10 月に空調設備が導入された警固小学校の短期実測調査およびヒアリング調査によるデータを基にエネルギー消費量や、冷房使用方法などについて比較・検討をした。